

第33回北麓カーニバル

コロナ対策マニュアル

山梨陸協強化委員会中学部

【1】大会を実施するにあたっての感染症対策のポリシー

- ① 3密を回避する配慮を徹底して行う。
- ② 競技者・関係者の自覚（自ら自分の身を守り、他人に感染させない）を促す指導をする。
- ③ 活動再開ガイドラインと施設利用に関するガイドラインを遵守する。

【2】具体的な対策

① 大会への移動方法

富士北麓公園への交通手段については、感染リスクの少ない方法での現地集合をお願いする。

② 各場所の集合形態

「ソーシャルディスタンス」「マスク着用」の徹底。

③ 招集の方法について

○選手の密集を避けるため、招集所を開設せず、現地集合のみとする。場所と時間についてはプログラムの指示に従うこと。（トラック種目＝スタート地点付近、フィールド種目＝各ピットを基本）

例) 100m

2組1レーン、2組2レーン…プログラム記載通り指定された時間に指定された位置に集合し、順次スタートする

4組 3組 2組 1組 スタートライン

● 2m ● 2m ● 5m ●
● 2m ● 2m ● 5m ●
● 2m ● 2m ● 5m ●

○フィールド種目の待機場所では1.5m間隔で指定場所を作成。

④ 服装について

○審判員は原則としてマスクは全員が着用、しかし、熱中症対策として個人の判断においてマスクを一時的に外すことも可。フェイスシールド・ビニール手袋・軍手（推奨）

○選手は原則としてマスクは全員が着用、しかし、熱中症対策として個人の判断においてマスクを一時的に外すことも可。（競技時は外してよいが、待機中は着用する）

⑤ 観客席対策

○観客席は、メインスタンドのみ開放する。

○観客席に入場できるのは、大会役員・監督・コーチ・報道関係者のみとする。

○大声を出しての応援は禁止とする。

○係員が巡視し、観戦者が密集することがないように徹底する。

⑥ 参加団体の対策

○各学校でテントやシートでベンチを作る場合は、平素よりもスペースを広めにとることと、ベンチ内で密集しないことを徹底する。

○大会中、部員同士での握手やハイタッチ、抱き合う等の接触行為がないよう事前に各団体に指導を行う。

○当日出たゴミについては各団体に責任を持って持ち帰る。

⑦ ウォームアップエリアについて

- ウォーミングアップは競技場内に指定されたエリア及び室内練習場（ウッドストリート）のみとし、待機所とはしない。
- ウォームアップエリアは選手・監督・コーチのみ入場可とし、付き添いは入場できない。リレーを除き集団でのアップや練習等は禁止とし、個別に距離を保って活動を行う。

⑧ 消毒対策

- 参加団体に消毒液を持参し、選手が競技場へ来た際と帰る際、また、ベンチ等に常備しておき頻繁な消毒を徹底する。
 - 玄関・各ゲート等の出入口と必要な競技場所に消毒液を設置し、出入りするすべての人に手指消毒を促す。競技前後の導線を示し、密にならない工夫を施す。
 - 共用の器具に触れる種目では、競技前に手を消毒し、競技後にまた手を消毒するという方法を取る。競技後手洗い等でのタオルの使い回しは厳禁とする。
- 例：100m： スタート前に手を消毒、スタプロに触れる、ゴール後にも手を消毒
砲丸投： 投擲前に手を消毒、砲丸を投げる、1投投げる毎に消毒

⑨ 参加要件

- 大会当日までの各校で使用している健康チェック表を学校の責任のもと作成し、本人が健康であることを確認した上で保護者に参加の承諾をしていただく。症状がある場合は顧問に報告し、大会への参加を自粛していただく。各学校の顧問は当日朝の大会受付時に来場した生徒の「保護者参加同意書」を提出する。
(※大会に来場するすべての生徒が提出) 及び、大会に来場するすべての生徒、指導者、その他関係者全員は健康チェック表のコピーを提出する。提出できない場合は参加及び入場を認めない。
※競技に参加する選手だけでなく、競技に参加しない部員についても、来場する際は保護者参加同意書を提出しなければならない。その他関係者においても大会1週間前から当日までの間に「該当する」に○がある場合は来場を自粛する。
- 当日の検温欄に記載がない生徒は、参加の可否を判断する。(体温計は各校で用意したものを使用)
- 試合後も来場した人全員の体調チェックを続け、症状が4日以上続く場合は必ず最寄りの保健所、医師会、診療所等に報告する。症状には個人差があるので、強い症状と思う場合にはすぐに報告すること。保健所、医師会、診療所等に相談するとともに、各団体責任者に必ず連絡する。責任者は山梨陸協に連絡し、該当者の大会後のチェックシートを回収・提出し、その後の指示を仰ぐ。

⑩ 競技運営について

- 全種目・全組の集合時刻を記載し、現地にて集合を行うことで密集を避ける。
リレーについては、メンバー全員が1走のスタート地点に集合すること。
- 時間短縮のため、決勝のみレーン紹介を行う。

⑪ 救急・救護体制について

- 大会中、救護室に医療関係者が常駐する。
- 医療関係者の指示の下、救護室の他に隔離室を設け、環境を整備する。

⑫ 報道対策について

- 報道関係者についても健康チェックシートの提出を義務付け、事後の健康チェックも継続してもらう。4日以上症状が続いた場合は山梨陸協に連絡する。
- 各社の人数については事前に相談する。
- 取材に関する詳細は、大会当日に説明する。